

クセになる。八尾の人、まち、自然、うまいもん

Yaomania

【ヤオマニア】Vol.22 2018年・冬号

近ごろ気になる八尾の夜。

ハマる！ボードゲームの波
立ち呑み、串カツ、高架下の誘惑
人通りの少ない場所のホットスポット

年末年始に贈りたい「八尾モノ」

ペントモール3番街

Yaomania Vol.22 冬号 2017年12月15日発行 発行(社)八尾市観光協会 八尾市北本町2-1-1 ペントプラザ20号 〒581-0803 編集1140B 定価0円 Printed in Japan



12/15(金)
1Fに
TSUTAYA
OPEN!

Linoas
SURPRISE
CHRISTMAS

近鉄八尾駅前
LINOAS



うれしい情報をLINEでお届け

LINE@

「検索」で登録してね!

ID検索で友だち登録 @LINOAS

QRコードから友だち登録▶



〒581-0803大阪府八尾市光町2-60

[お問い合わせ] TEL.072-990-0511

<http://www.linoas.jp>

リノアス

検索



改札口すぐ、でも星が瞬く「服部川」でブレイクするハッピーな洋風居酒屋！

近鉄服部川駅改札を出て約20歩で到着する「グッピー」。創業44年を数え、地元最古参店として長く親しまれているが、3年前からはじめた洋風居酒屋は、お客がわざわざ電車に乗って食べに来るほどの評判に。もちろん、やまんねき（山麓）の住民も日が暮れると自然に集まり、グラスを傾ける。お目当ては2代目の飯田久喜さんが作るカジュアルな洋風料理で、一押しは真空低温調理のビーフステーキ（880円）。「下味をつけて58℃で50分間キープした肉を表面だけさっと焼くんです。ローストビーフのようなジューシーな肉のやわらかさとうまみが堪能できますよ」。フレンチやイタリアンの店で22年間修業し、すぐ腕シェフとなって地元に戻ってきた飯田さんは「思い出の場所だから駅前の灯りを絶やしたくないんです。街場の流行メニューや野菜多めのおいしい料理をみなさんに食べてほしい」と語る。

取材・文=きむあつこ 写真=内池秀人



すぐに馴染めそうな、昭和チックな外観。「子ども連れでも安心して飲める」の声も



オーギービーフの希少部位「みすじ」を焼いた気合いの一皿。フライドポテトも本格的な味だ



「お客さんの要望で和風メニューを増やしました」と飯田さん（左手前）。右隣は昼間喫茶店を営む両親の勝男さん、久子さん。「わがままを聞いてくれるんです。ここは何でもおいしい」とお客さん

●八尾市服部川7-50 ☎072-941-8123
喫茶7:00～17:00（日祝8:00～）
夜の部17:30～23:00 第1・3日曜休

栄町



自家製窯でピザを仕込むシェフ



隠れ家の雰囲気溢れる店内でゆったりと自慢のイタリアンを。

オステリア・イル・ガット

世界各地を旅した経験のあるオーナーシェフの吉田嘉孝さんがたどり着いたイタリアンは、本場のエッセンスを取り入れつつも日本人の舌に合うメニューばかりだ。常連客のほとんどが注文する「前菜盛り合わせ」だけでも満足してしまうほどの味とボリュームだが、注文後に生地を伸ばし、自家製窯で焼き上げられるピザもぜひ。薪と炭を併用し温度管理を厳重に、水分をしっかりと残すことで、独特のモチリ食感を生み出している。

●八尾市栄町1-1-3 プラスドラコメディー栄町
☎072-915-1984
18:00～翌1:00 水曜・第2木曜休



1 前菜の盛り合わせを持つ、パンの名店[トントレミー]ご夫妻も常連さん。イル・ガットとのコラボメニューも実現 2 人気メニューの一つマルゲリータ。見た目以上にモチモチと弾力のある生地はピザカッターの「手応え」がしっかり 3 隠れ家、ではあるが贅沢に取った空間 4 水道局の前。夜の8時で静かだ

1 このツヤ、このボリューム。注文しないのが勿体ない、造り盛り合わせ2,300円。本まぐろ握りや、注文後に揚げる揚げ出し豆腐も人気 2 「働きものの大将、見てたら応援したくなる」と常連さんの1人、森部さん 3 JR八尾駅・近鉄恩智駅の中間だけど、それぞれ1km以上離れた、徒歩20分ぐらいの場所



大竹

昼間は山裾にぽつんと佇む倉庫。

PitBreak

夜にシャッターが開き、やっと「ここはバーだったのか」と気づく。1階は主に夏場のBBQ客で賑わう空間で、ふだんは店主・浅山裕基さんの愛車の展示場。もともと車の塗装や鈑金を行う目的で借りた倉庫を、同じ趣味を持つ友人知人が立ち寄る機会が増え、改築を重ねて、現在の形に。店内は出張の多い店主が集めた全国の地酒で溢れ、店頭に並ぶ酒瓶はそのごく一部。洋酒も豊富で、函館から直送される北海道限定ビールや生のオリオンビールもここに来れば飲めて、お酒のレベルがすこぶる高い。

●八尾市大竹3-58 ☎072-941-5585
20:00～翌3:00 水曜ほか不定休



1 冬場の人気メニュー、おでん。ほとんどの客が酒のアテに注文 2 インスタ映えるカクテル、コロナリタが飲める八尾ではレアな店 3 外から見ると「倉庫の中が明るいな」ぐらいしか分からない

何でも美味しいが、新鮮な魚のファン多数。

旬幸旬美 深登吏

料亭で修業を積んだ店主の石田幸一さんが地元で15年前にオープン。当初は道路を挟んだ向かい側に店を構えたが、2年前に現地に移転。厨房も客席も広く、より多くのお客を迎えられるようになった。常連さん曰く、「週末は基本、予約必須。ちょっと顔出して、空席があったらラッキー」。それほどの繁盛ぶりなのに驚くべきは、調理はすべて店主一人で切り盛りするのだ。数人いるスタッフは主に客席担当。厨房をグルグル動き回るさまは壮観だ。

●八尾市八尾木1-32 ☎072-925-4567
17:30～22:00 月曜休

見よ、鮮魚満載のショーケースを



八尾木

愛車家である店主の意向が、店名や内装からうかがえる。「マスターは気さく、家族みたいに親切」と常連さん

「こんな場所です!」
「夜はにぎやかです。」
夜のにぎわいは「駅前」だけじゃない。ちょっと辺鄙な場所も、さりげなく活気づいている。見さんではなんとなく立ち入りたがたい雰囲気だが、大丈夫。懐が深いのも、八尾のお店のスタンダードですから。

取材・文=西村由起子 写真=田村和成



どの店でも
「おかえり」の声。
夕方から夜を過ごす人々が集うライ
トな「たまり場」。人気の3軒に共通
するのは、話しても話さなくても、適
度にほっとしてくれる空気感と、たま
らないアテの数々、そして長い年月を
かけて店とお客がつくりあげた独特な
「心地よい時間」。クセになるやも……

「土曜日開けて!」のラブコールに応えて。

立呑み処 きくや [北本町]

おしゃべりを絶やさず、テキパキ料理を出してくれるマ
スターを囲むように置かれたU字のカウンターには常連さ
んが続々と。取材に際して「お客さんと話すのはエエけど
身元調査はアカンで。自分のお金で呑みにフラーっと来
て、お疲れさまって帰るのが立呑みの醍醐味やからね」。
ごもつともです。日替わりメニューで人気の、特製濃い口
カレーをアテにすれば、お酒が進む。常連さんの熱烈オ
ファーに負け、第2・4限定で土曜日も営業。「でもその人、
絶対土曜は欠かさず来はるねん。タクシー飛ばして来たり。
ほんま律儀」。蜜月な関係に顔がユルむ。

●八尾市北本町1-4-27 Beer House きくや2F
☎072-999-3629 16:00～20:30(第2・4土曜16:30～19:30)
土・日曜休(第2・4土曜は営業)



1 左から節代さん、千津美さんとみんなでカンパイ! 地元のあ
ったかみを感じつつ、「3世代で小学校の校歌歌えるよな」と久
宝寺あるある。炸裂 2 ダシたっぷりのこんにゃく、すじ肉各100
円。「色は濃くないのにしっかり味のついたおつゆは飲み干したく
なるよね」と画家の須飼さん。焼きそば(250円)もビールの友

戦前からずーっと続く寺内町、名店のおでん。

高倉酒店 [久宝寺]

ツメツメでもええ感じの店内。「私のおじいさんがは
じめたのがこの店の最初です」とは、店の「2枚看板」
で店主の姉・下川節代さん、奥様の高倉千津美さん。お
でんは煮すぎないように、当日の14時からカツオのダシで
作る。常連さんのことを考え、500円を超えるメニューはな
い。「今日のおからのたいたんも甘くなくてイケてるでし
ょ?」。イケイケです。この店、「森酒店」と共に松井宏員(ひ
ろかず)『酩酊 大阪八十八カ所 立ち飲み三銃士と行く』
(日本教育研究センター)に掲載されている八尾の「立呑
み札所」。札所を通し打ちした今夜は、ご利益ありそうだ。

●八尾市久宝寺5-2-28 ☎072-922-3621
16:00～20:00(土曜は～19:00) 日・祝休



1 「来るんやったらもっときれいにしたいのに～」とカウンター内
の森さん。大切に飾られている、某有名女性画家が訪れたときに
店内を描いた絵は一見の価値アリ 2 おでんはどれも美味で一
律120円。紅ショウガてんぷら(100円)のウマさもあることながら、
この空間で食べるからこそウマいのが鯖缶。大人5人で呑んで
1,250円! 3 このビニールカーテンの向こうに魅惑のヴィンテ
ージワールドが。店構えだけでムンムンに醸し出す酒場感

大将曰く「八尾で一番安い店やから」。

森酒店 [本町]

お速夜(たいや)市の幟を横目に八尾ファミリーロード
の西願寺手前にある酒屋さんへ。ビニールシートの暖簾を
くぐるとレトロでええ感じの空間が。ラップぐるぐる巻きのリ
モコンや、ルーベ、大原麗子のポスター、カーブミラー
……たまらない一品が店内に。壁にかかった「春夏秋冬二
升五合」の竹看板は「商い(秋ない)ますます(升升)
繁盛(半升)」と読ませる。朝から晩まで、水曜以外は
毎日営業。お父さんずっと呑んでますやん! 「ヤカラばっ
かり相手にしてるからなあ、呑まなやつてられへん(笑)」
と店主・森政之さん。商は笑にして、勝なりですね。

●八尾市本町5-7-20 ☎072-923-4288
9:00～20:00 水曜休

新旧のホットスポットへ。

話題の「ボードゲーム」もトラディショナルな「立ち呑み」も
「人との距離が心地よい」八尾らしい娯楽でした。

取材・文＝中井咲穂 写真＝MIKIKO

5千年前から続く
人類平和の娯楽!?

ボードゲーム

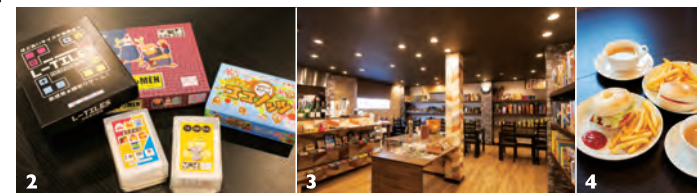
「べべでも嫌な気がしないんです」 ボードゲームカフェinst

4月にスタートしたばかりの「世界中のボードゲームが楽
しめる、カフェショップ」。「勝ち負けはあるけれど、勝った
負けたではなくその過程のおもしろさが大事ですね」と、
店主の泉谷徹二さん。その彼が約4年間かけて集めたとい
う200種類以上のボードゲームを、お酒や食事を楽しみ
つつ実際にプレイできる。シェアプレイを推奨していて、
他の来店者と一緒にゲームすると料金が20%オフになる
特典も。「テレビゲームと違って実際に人と出会えるのが
ボードゲームの良さですね」。下は2歳から上は99歳まで、
ゲームやルール次第では全く対等にゲームを楽しむことが
できる。5種類ほどやりたいものがあり、大人4人、感情
全開で大騒ぎしたが2つであえなく時間切れ。時を忘れ、
必死になって遊ぶこの感覚、最近なかった!

●八尾市北本町2-4-6 加藤ビル2F ☎072-968-7163
10:30～22:30 水曜休



1・2『ウィ・ウィル・ロック・ユー』は全身で遊ぶリズムゲーム。カードで配られた自分の担当のボ
ーズをQueenの『We Will Rock You』のリズム(ドン・ドン・パン=太もも2回、手拍子1回)の後に
披露し、そのあとすぐ別の人間にポーズを指名する。白熱すぎて翌日太ももがヒリヒリ(笑)。
次の動作ができなかったり、自分の番じゃないのに動いてしまったり、とにかく流れを切った人
が負け。次第にテンポも早まり必死の形相! 3・4『黄金体験』はコミュニケーション重視の推
理系ゲーム。あるプレイヤーの過去の「体験」について皆がヒントを出し、それをもとに本人が
当ててるのだが、ヒントのさじ加減が難しい! アフタートークも盛り上がる。左奥から右回りに代表
の上野さん、河田宏太さん、丑田拓麻さん、所長の廣瀬孝二さん、筆者



1 花とドクロが書かれた4枚の手札カードを駆使して、壮絶な腹の探り合い。ドクロをめくるまで
に何枚の花をめくることができるかを宣言し、達成すると1ポイント。決着がつくとこの顔に 2
「八尾のボードゲーム作家」がつくったゲームでも遊べる。「どれも面白いけどどで説明するの
は難しい。とりあえずやってみよう!」 3 ボードゲームの店頭販売もしているの、なにかと
集う機会が多い年末年始のお供を探すのもまたよし 4 一番人気のベーグルセット(ベー
コンレタストマトor生ハムクリームチーズから)はドリンク代+500円でポト付き。お酒も飲める

「初対面の人、世代が違う人とも楽しく」 ボードゲームサークル「おたのしみ会」

久宝寺コミュニティセンターの「将棋感、あふれる和室
に上がってサークルの皆さんとボードゲーム大会に参加。
机を囲み、はじまれば自然と会話が盛り上がる。「サークル
の彼らは真面目で、絶対夜10時には片付け終わって出
やるんですよ」「子どもイベントの時には、気いよう遊んで
くれたってるしね」と所長の廣瀬孝二さんは笑顔を浮かべる。
以前はすごく根暗な性格だったと話してくれた代表の
上野雄也さん。「ボードゲームを通してならコミュニケーション
ができる」「人と関係を築くのが困難な今だからこそ、
ゲームを通じて仲良くなりたい」その言葉にボードゲーム
の輪が広がってゆくことを思わず願った。

http://otawamurekai.blog.fc2.com/
毎週金曜19:00～22:00
久宝寺コミュニティセンター(北久宝寺2-1-1)で開催
※開催前日までに、名前・参加人数を明記し
otanoshimi.komajin@gmail.com
または @otanoshimi_koma (twitter)に連絡を。
参加費1人1回300円

「新世界中を回って研究」の成果！ ふじき [北本町]

暖簾をくぐると一見コワモテの大將が、「いらっしやい!」。威勢の良いかけ声と共に見せてくれる笑顔に釣られて、こちら思わずニコリ。名物の串カツは新鮮な素材を上品な薄衣でサクリと揚げるのが特長。これが10本1,000円と破格なのは、大將のサービス精神ゆえ。さっさと「串カツとビール」を注文したいのに、元料理人の大將が作るメニューはどれもこれも名物級。「一品でお腹いっぱいになってもうて串カツにたどり着けずに帰ってまう」常連客が多いと聞いて思わず、爆笑。

●八尾市北本町2-11-14
☎090-1158-4244
17:00～0:00(日曜～23:00) 月曜休



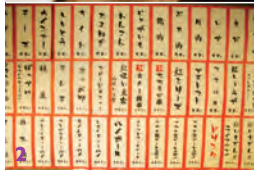
1 向かって左から、椎茸250円、うなぎ300円、アスパラ300円。おまかせコースは10本1,800円と12本2,300円 2 常連の坂元さんご夫妻曰く、「週末はいつも満席。平日でも窓から覗いて、空席があればラッキー」という繁盛ぶり 3 老舗「串の坊」や、八尾の名店「法善寺」などで修業した店主。1人でもふらっと立ち寄りやすい気安さ



採算「だいふ、ハマだしてます」と店長。 紅 [ペントモール]

“八尾串カツ物語”の最新話、というべきニューフェースがこちら。近鉄八尾駅すぐ、交差点に面した高架下という分かりやすい立地にオープンした新店だ。揚げ物なのに何本でも食べられてしまうその理由は、1串98円～という安価ではあり得ない食材を使い、揚げ油にもこだわってサクサクに揚げるから。明るいスタッフとの掛け合いも楽しい。なんといっても、平日の昼間（ランチもある）から串カツを肴に“ちょい呑み”できる点でも、八尾では貴重な存在。表紙はココです。

●八尾市北本町2-2 ペントモール八尾3番街B-41 ☎072-983-6634
11:30～22:00(21:30L.O.) 不定休



1 揚げたてにビール。黄金の組み合わせに女子も「ブハッ」 2 壁一面のメニューはどれもリーズナブル。串カツは庶民のミカタなのだ 3 揚げる手順もトークも軽快な店長の川島仁さん



女も微笑む串カツどき。

取材・文 西村由起子
写真 田村和成

串カツにビール。片手にはスポーツ紙ときたら、立派なおさん……だったのが今や、女子たちも昼夜問わず、行けるようになりました。串カツの名店が点在し、新世界中に行かずとも、おいしい串カツが食べられるせいかも。男だけに楽しまれてなるものか！



華やかさとイキの良さが売りの、近鉄八尾駅高架下ペントモール



1 女性は「おいしいものを少しずつ、いろいろ」に弱いから、彩り良く盛り付けられた前菜(2人前2,000円)が大人気 2 このシェフの手にかかればどんな食材も旨味引き立つ

タブリエ

“オジサン”の聖地、の印象が強い「夜の高架下」にあって、女性率90%以上という希少なお店。フレンチだが肩肘張る雰囲気ではなくフランクで、すこぶる居心地がよい。思わず愚痴や悩み相談をしたくなる、良い人オーラ全開のシェフの人柄と、厳選された食材、創意工夫の行き渡ったお料理に女性たちが惚れこむのも納得。地場野菜や旬の食材をたっぷり使い、どのメニューもボリュームがあるのにヘルシーな魅力。フレンチに合う日本酒の品揃えも、今ドキの女子好み。当日もテーブル席では女子会が……。

●八尾市光町2-180-1 ペントモール八尾5番街
☎072-999-4322 11:30～14:00 18:00～22:00 火曜休

地元民から「待ってました!」の近鉄久宝寺口駅高架下



1 日替わりのお惣菜はどれも1品350円～。家呑み気分でも毎日でも立ち寄りたくなる味と価格だ 2 女将の人柄を反映し、カウンターは和やか。招福と、「隣近所とうちを往復してね」を掛けた店名

お福

居酒屋でも割烹でもない、昭和ムードほんのりの“立ち寄り処”。地元の福田珠千さんが「自分が食べたいものを出すお店」を作りたいと、昨年10月に開店。女将が作るのは、特別なメニューではなく、老若男女だれの口にも合う家庭料理だ。カウンターに日替わりで並ぶおぼんざいが特に人気で、「この、めちゃうくちゃおいしいねん」と、常連のお客様の胃袋をガッツリとつかんで離さない。冬場はしっかりと「味のしゅんでいる」おでんもお薦めだ。

●八尾市佐堂町3-68 ☎なし
16:30～23:00 不定休



1 食べなきゃ絶対に損、天然魚の薬焼き。写真は鹿児島産の鰹(980円) 2 店長の西川太洗(たいご)さんが焼くいろり端を陣取れば、肉や魚の香りにノックアウト寸前!

炉端焼き酒場 一心

近鉄八尾駅周辺にありそうでない、炉端焼きスタイル。懐かしさ、親しみを覚える中高年層と、逆にもの珍しく感じる若い世代、両者の支持を集める繁盛店だ。スタッフがイケメン揃いなので今後は女性客も増えそう。鮮度自慢の食材は豪快に焼くだけ、炙るだけ、造るだけで十分にうまい海鮮と全国から集めた日本酒が看板。とくに香り立つ薬焼きによる「鰹のたたき」や、炭火焼きの「とろサバ」は1匹丸ごとでも半身でも注文できる人気モノ。八尾ではレアな「うなぎ鍋」もじわじわ人気だ。

●八尾市光町2-180-1 ペントモール八尾5番街
☎072-924-7788 17:00～24:00 無休



1 女子なアレンジをきかせた「生ハムと柿のカプレーゼ」とサンデリア。各500円 2 トモちゃんと呼ばれるバーテンデスは水・金曜の担当。カウンターの「みな、お友達」な空気感も心地いい

クワッド

地元常連の1人“民生委員のドン”曰く「久宝寺口で初のショットバー」。日替わりでバーテンダーが変わるユニークなシステムで、メニューも趣向もさまざまな変わる。この日用意された2種類の「アテ」は、女子が大好きな味で、ビジュアルも洒落たもの。実際には仕事帰りのお兄さんにも自治会のオジサンにも好評でみな「うまい、うまい」。着席だと6人、スタンディングなら12人入れる。店名は、当初4人(クワトロ)のオーナーによる「企て」だったことから。

●八尾市佐堂町3-68 ☎なし 月曜18:00～23:00
水・土・日曜17:00～23:00 金曜20:00～23:00 火・木曜休

あつてうれしい「高架下」。

取材・文 西村由起子
写真 田村和成

ガード下と言えは前時代的などこかさびれた印象で、電車が通るたびにガタゴト……いえ、八尾の高架下はなんだか明るいし、揺れないのです(笑)。「仕事帰りのちよと一杯」家を出し近所で一杯、そんな憩いの場であり、社交場であり、第2の食卓みたいな場所!

まだまだ終わらない、 八尾の夜コラム

取材：文・西村由起子(かもじや) 中島淳
写真：田村和成(かもじや) 内池秀人(ハス)



この秋二度目のオープンで8階の飲食フロアが大充実したリノアス。ニュースは終わらない。八尾の夜をより楽しくする1階の強力店をご紹介します。

夜もお楽しみ いっぱいのリノアス、 注目は1階フロア。



1970年に誕生したコーセーの最高級ライン、コスメデコレ。いくつになってもキレイでいたい女子にとって、憧れのブランドだ

八尾で90年の老舗がお出かけメイクもサポート。

かもじや

大正15年（1926）に小間物屋として創業。本店はかつてファミリーロードで化粧品と日用品を取り扱っていた。現在はベントモールに本店、アリオ八尾店、そしてリノアス店（旧西武八尾店）と3店に。創業以来の「地域密着」で人と人とのつながりを大切にしてきた同店への信頼は厚く、何十年と足を運ぶ顧客が多い。リノアス店では従来からの資生堂コスメに加え、アクセサス、シュルクール、OPALが増えた。百貨店限定のブランド資生堂やコーセーのデコレなど八尾で唯一ここでのみ購入可能な商品もあるということを知っている人はまだ少ない。

☎072-997-1200 10:00～20:00



左／「1人ひとりの肌質に合ったお手入れ方法をご提案します。お肌のお悩み、気になること、何でも大歓迎」とは店長代理の大隣優子さん(左から3人目) 右／「八尾の夜へいざ出陣!」の前にプロのメイクを体験してみて

駅近ツリビング仕様、書店、いよいよ12.15(金)オープン!

TSUTAYA

リノアスの目玉の一つとして登場するTSUTAYAリノアス八尾店。流行の本や旅行書・キッズ本コーナーがとりわけ充実し、ゆったり探せる書店としてのみならず、文具や映像・音楽・コミックのレンタルを楽しめる場所になる。なんと24時まで営業。寒くて長い夜はもう一つの「リビングルーム」で。

☎072-990-5411 10:00～24:00



東と西の端で、 ライトアップ競演!

久宝寺緑地のメインストリートと言える中地区中央広場（花の道）。そこに12／27（水）までの間、御堂筋や中之島などのライトアップで知られる照明デザイナーの長町志穂さんが手がける、「わたあめ」をイメージした温かいピンクの明かりが約100メートルにわたって灯る。中央環状線の久宝寺橋を渡ってすぐ西だから、覚えておこう。そして東の横綱は、大阪経済法科大学の花岡キャンパス。高安連山の麓、普通でさえ星空がきれいな場所ゆえに、このライトアップはとても幻想的だ。今シーズンは1／26（金）まで。北本町の八尾駅前キャンパスでも見られる。



大阪経済法科大学花岡キャンパス。街の喧騒から離れているだけにひととき幻想的な光景だ



久宝寺緑地は17:00～21:00。西の空に夕焼けが残る点灯直後もお薦めだ

Yao Night Special FMちやおの強者部長と乗った 河内5都市を結ぶ最終バスの旅!



「最終バスってどう? 藤井寺、瓢箪山……行き先もいろいろあるし」。本誌特集会議で、FMちやお「現場主義」の権化のような業務部長・鈴木昌宏氏が口を開いた。バスをモチーフにした昭和歌謡で育った人間には必殺ワード、しかも「最終」が心をくすぐる。「この辺りで最長区間の八尾―萱島線というのもあって……」即決し、近鉄八尾駅バスターミナルの6番乗り場集結した。

「スリムな胴長バス」の理由。

萱島行最終は20時52分発（39系統）。シルエットがちよつと思議。車幅が狭く、長細い。運転士の葛井孝さん曰く「日野のレインボーHRといつて、もう生産してない機種ですが、狭い道には最適で、私らは『ダックス』と呼んでいます。ハード自体も、いつもと違う感。満載だ。発車するとすぐに萱振寺内町。歩道と車道の区別もセンターラインもない道こそダックスの本領発揮。街灯もまばらだがスライスイ走る。

「大した話もなくて、記事にならなかった

たら申し訳ありません。」と謙遜しまく

つていた鈴木部長は小学生時代に東大阪市にいた頃、引つ越しの関係で一時期バス通学を余儀なくされたが、その時バス移動に「味をしまた」らしい。「布施駅のターミナルからは四方八方にバスが出るでしょ。知らない路線に乗ってはどこへ行くか分からずにドキドキしてました」。見ず知らずの終点で心細くなっている鈴木少年に、運転士さんとバス会社の連携で「保護」してもらったりなど、バスをめぐるエピソード満載の人である。そうこうしているうちに東大阪市内に入り、近鉄若江岩田駅の高架をくぐる。

「この辺りはかつて河内市でね。中環の西側が布施市やっただです」。その2つと枚岡市の3つが合併して東大阪市が出来たのは半世紀前の昭和42年（1967）。「元々は田んぼばかりやっただ」という窓の外はタワーマンションの明かりが灯る。「右つ側の近畿自動車教習所は出入口が狭い。路上に出たら混むしバスやトラックがいっぱいだから上達するんです」「阪神高速東大阪線の下の道は、

地下水が枯れると地盤沈下で路面が波打ち状態になり、沈下した道路の高さに合わせて高速の橋脚を削っていく工事がまた大阪で……」八尾市民が知らないミニ東大阪市ストークが続く。

近鉄荒本駅を往復し、しばらく走ると大東市に。「三洋町」という町名や「三洋電機前」という交差点名は、社名がなくなつた後でも不変だ。この路線は東西に走る鉄道を串刺しにつなぐ意味があるが、4つ目のJR住道駅に到着。

「以前も、商工会議所青年部の会合でここに来たんだけど、住道を過ぎると、遠いとこまで来てもうたな、って感じ」

萱島終点、寝屋川市の謎。

たしかに、寝屋川を渡るとまた景色が変わり、北河内の工業都市・門真市に入る。バスの窓は大きく、電車と違って前方の視界が広い。再び鈴木氏。「バスの大きいワイパーがパターンパターンと動くのが好きで……」健気な感じですね。

「昔の近鉄バスはエンジンとアイボリーのツートーンやっただけいつの間にか変わ

萱島		「今日のビールはちよつと格別やな」各地の実況でもお目にかかる北山ヒロト氏(左)も同乗
上馬伏		安全運行を終えての笑顔。葛井運転士、お疲れさまでした
岸和田		にぎやかな駅前、かと思いきや意外にひっそりした萱島終点
四宮住宅前		車内で一番盛り上がった停留所名。門真の「岸和田」は河内八箇所の荘園の一つだった
岸和田		デジタル表示の運行スケジュールが運転席に。現在、約4分の遅れ
下馬伏		中河内から北河内へ。寝屋川を渡る大きな鉄橋
江端		住道を出ると、同じ路線の南行きと感動のすれ違い!
御領東		バスのフロントガラスは広いのでロードサイド食堂もよく見える
水野		阪神高速東大阪線。ここで左折して近鉄荒本駅まで往復する
赤井北		「昔はバス正面のくると回る行先表示に蛍光灯が当たって赤く光るのが好きでしたねえ」
赤井		萱振寺内町の道。葛井運転手の前にあるミラーの数に注目
住道駅筋		「ダックス」は心なしか車幅がちよつと狭い
JR住道		近鉄バス福田営業所では「ダックス」、京都では「うなぎ」と呼ばれる日野レインボーHR
三洋町		
三洋橋		
朋来住宅前		
加納		
楠見橋北		
楠見橋		
箕輪口		
中野東		
中野南		
荒本駅前		
中野南		
菱江中ノ町		
菱江		
菱屋東		
岩田町五丁目		
若江岩田		
若江本町		
若江		
若江南		
西郡新町		
西郡西口		
西郡		
西郡南口		
八尾北高校前		
萱振		
萱振南口		
八尾中学校前		
光町二丁目		
近鉄八尾駅前		

第2特集 年末年始に「八尾モノ」を。

クリスマスやお正月は誰かに贈りたいプレゼントや手みやげの準備に何かと忙しい。そんなとき、サイドストーリーも魅力的なメイドイン八尾の名品はいかが？
「使う」「遊ぶ」「食べる」……お薦めしたい(ちょっと自慢したい)スグレものが地元になくさんありました。

取材：文々きむあつこ 写真：内池秀人



その1
使いたい！
八尾モノ

FMをBGMに、ガスバーナーを当てながら鉄板を叩く八尾出身の気さくな柏原さん。ひらひらだった縁のしわが伸び、フライパンに近づいていく(写真は直径26cm)。四角や楕円などのオーダーも可

もはや芸術品との呼び声が……

金属造形工房 MAFの「アイアンフライパン」

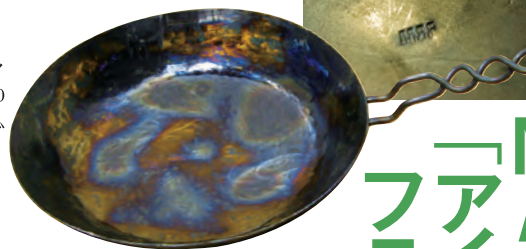
鉄製なのに意外と軽くて丈夫。焦げ付きにくいと評判でこれに惚れてみ、買い揃えるヘビィユーザーがいる。作っているのは金属のオブジェを数々手がけてきた柏原秀年さん。パワフルな作品で知られるメタルアーティストだ。「造形作品のファンから私に使えるものを作って、というリクエストがあり、取り組んだのがきっかけでした。喜んでもらえたのでさらに研究を重ねていったら、注文が殺到し、オブジェどころで

オリジナルデザインのフライパンは直径14～15cm4,000円から。IH仕様も可。"MAF"のロゴが職人の誇りだ

金属造形工房 MAF

●八尾市北木の本1-48
☎072-992-8021(製品は電話で注文を。実物は大阪市中央区谷町6丁目のギャラリーショップ「OriOri」で見られます)
MAFの個展は12.15(金)～17(日)浪速区のギャラリーカフェキリン(☎06-6632-1155)、2.10(土)～12(祝)芦屋のギャラリーポウ(☎0797-32-1791)で開催

はなくなりしました(笑)。材料や道具が所狭しとひしめき合い、工作マニアが見たらヨダレものの工房で、一から手づくりでフライパンを仕上げる。「サイズや柄の種類(素材も)が選べるので、出来上がりはどれも一点モノ。一生使えると思います」。こんなキッチンウェアをもらったら胸がキュンとして、料理の腕が上がるかも。



青山通りに面した外観は、ふらりと立ち寄ってみたくなるおしゃれな佇まい。既存バッグ10,000円～、小物450円～

アンティー

●八尾市八尾木北1-1-15
☎072-927-1707 13:00～18:00
木・金曜、第1・3土曜、第2・4日曜営業

革の衣装でトータルコーディネートした真弓さん(右)が持つのは人気のオーダーメイドバッグ56,000円。お母様の松村寿子さんはこの道50年のプロ



真心のこもった「味違う革クラフト」 アンティーの「革小物」

上/カップルに人気のベアプレスレッド(イタリア製ヌメ革)は4,500円～
下/上質な栃木ヌメ革を使用し、裏地はレンズにやさしい滑らかなスエードタッチの超極細繊維を縫いつけたメガネケース6,900円



この時期にぴったり、クリスマスプレゼントによく似合いそうな革クラフトを扱っている「アンティー」にはワクワクするような小物がディスプレイされていて、上質な革の薫りと色、デザインに思わず五感がノックアウトされそう。ここは親子3代にわたってレザークラフトを手がけ、2代目の北村真弓さんがオーダー＆ハンドメイドの一切を取り仕切る。「両親が60年前にカバン製造を始め、このショールームは来年10年目を迎

ます。革にこだわり、さまざまなグッズを作ってきました。初心者でも楽しめる手作り教室もやっているのでプレゼントを作られる方もいますよ」。親しい人への贈り物を自分で作るのは気持ち直球で伝わるチャンスかも。着なくなった革のコートやバッグのリメイクレッスンもあり、大切な思い出の再生こそ、最強のギフトに違いない。

ドミノや積み木で遊べる、八尾発の知育玩具。

ノチダの「不思議な積み木 DOMIGO」

ドミノは途中で倒れると戻すのに時間がかかり、イライラしてくるが、それが一瞬で戻り、積み木のバズル遊びもできる。ありそうでなかった新しい知育玩具が「DOMIGO」だ。開発したのは社員の竹橋秀樹さんで、子どもの夏休みの工作がヒントになった。

「当時小学5年生だった息子の発案なんです。手伝っているうちに木片の下部を糸でつないだら、すくっと起き上がり、面白いおもちゃになる予感がしました」。ノチダは金属部品を作る会社だが、自社製品の開発にも力を入れ



開発者の竹橋さんは根っからの工作好き。「息子のアイデアに負けじと、最近紙の三つ折り機を開発しました」

ており、竹橋さんはその候補として提案。1年かけて材料の吟味や安全性の確認を行い、世界中探してもどこにもない不思議な積み木が完成。2015年8月に発売を開始した。「八尾市のSTADIから商品開発の支援をいただき、少しずつ認知されるようになりました。これまでにない造形遊びができるので、Japan Expoパリ2017ではトレビアン!の声も。数える訓練や指先の感覚が養われ、大切なお子さんへのプレゼントにおすすめです」。パーツの一つひとつが手づくりで、天然木の温もりを感じるDOMIGOは、誕生のストーリーも温かい。創造性豊かに育ってくれそう!



チークやウォールナットなど世界の木、10種類を使用したワールドシリーズは9,800円。高級感があります

(株)ノチダ

●八尾市老原9-30
☎072-994-1921

八尾モノを世界ブランドに! STADI(スタディ)の取り組み。

八尾市に事業所を持つ中小企業を対象に、日本を代表するプロダクトデザイナーがプロデューサーとなり、販路開拓を見据えた製品・サービス開発をサポートする事業。現在、10社が認定を受け、自社商品の開発や既技術の用途開発に取り組む。これまでに、「DOMIGO」のほか、フレームのないおしゃれなホワイトボード「フレームレスライティングボードsafo」(さくら精機)、長針・短針・秒針の必要最低限の要素のみ残したアイコンのような時計「iconclock」(写真・テクノグローバル)、紙の露出を最小限に抑えたティッシュボックス「pao!」(同)が誕生。

※「STADI」の公開講座はP14をご覧ください。



カラフルなマリングッズに囲まれた店内に、お年寄りや若者が集う。みなべ農家がこの店用に特別に漬けた梅干しやミカンも販売

カラマビーチ

●八尾市本町5-8-1
☎072-929-8731
火～木曜10:00～20:00
(金・土曜～18:00) 日・月曜休

常光寺住職・片岡英俊さんは「海のない八尾で干物が取り持つ縁とは、愉快ですね」と語った。

河内音頭の聖地・常光寺の参道、もっとも山門寄りに今年5月にオープンしたマリングッズショップが面白い。八尾出身の水谷恭子さんは20年以上和歌山の海でダイビングを教えるインストラクターで、串本町のおいしい干物に惚れこみ、丹精込めて仕上げた紀州の味を知ってもらいたいと思い、販売を決意。「参道を通るお年寄りの目に留まり、人気です。魚の鮮度にこだわりの、熟練の手ですべて手開き加工しているので違いがわかるんですね。贈答品としても喜ばれています」。一番人気のサバのみりん干し(600円)は脂ノリがすごく、衝撃的なうまさ。これ1枚で4人分はまかなえそう。海に潜っていて不在のときは申込用紙がポストに入っていることもあるそう。



上/「盆踊りの日は特別にここで焼いていました」と実演してくれた水谷さん。ホクホクに焼けたサバのみりん干しは絶品でした 右/サンマ、カマス、太刀魚、イカ、アジなど12種類の干物はどれも美味で、迷ってしまう。ギフトセットは3,000円から



「カラマビーチ」串本町の干物は「新しい八尾名物」の予感。

食べる八尾モノ頂上決戦、「八尾コレ2017」出品と試食・選定員大募集!

「八尾の地域資源や食材、地名を使った食品」の中からグランプリを決めるコンテストの「八尾コレ」。これまでにさまざまな名品が登場してグランプリを決めるのに審査員を大いに迷わせたが、その熱き戦いが3年ぶりに復活する。出品条件は①八尾市の地名や地域資源などをイメージ、あるいは表現②日常的に販売しやすく、また手土産としても利用しやすいもの③1事業所につき3品まで応募可

この12.20(水)で書類選考を締め切り、1月上旬までに8商品がセレクト、1.28(日)には八尾商工会議所会館3階大ホールで一般市民の試食・選定員(定員24名・応募締切1.10(水))も交えた試食、審査、そしてグランプリ発表!というスケジュール。もちろん次号では八尾コレ大賞とコレクション賞を発表するので、そちらもご注目を。応募要項は八尾商工会議所のHP(<http://www.yaocci.or.jp>)をぜひ。



八尾コレ2014大賞受賞作、「パティスリー イグレック オガワ」のかわちもん

あんこ好きが太鼓判を押す、これぞ逸品。山水堂の「三笠」

和菓子の定番といえは三笠。どれも似たようなものと思いがちだが、この三笠は、見た目は個性を主張しないが、半分には割ると中から栗の甘煮が目見えし、「おっ」。うれしい顔になって頬張ると、しっとり感のある生地とふつくと炊き上げた自家製粒あんが絶妙に口の中で混ざり合い、「うまい」と思わず声が。モノづくりの好きな5代目・和田英二さんは子どもの頃から家業を手伝い、迷わずこの道に。昔ながらの手づくりを大事にする。「甘さ控えめが主流ですが、砂糖が少ない



赤飯やお餅、フルーツ大福もこの名物だ

山水堂

●八尾市本町3-8-18
☎072-923-0253
9:00～19:00 ほぼ無休

とパサつくので、生地の焼き方には相当工夫しました。国産小麦や北海道産小豆を使っていますが、いい材料は当たり前前なので、それを強調するのは嫌かな。うんちくよりもまず味、まっすぐな人柄に和菓子への愛を感じた。

「時々、信貴山口までサクッと走ります」と趣味のサイクリングを語るアスリートな和田さん



向かいの八尾高女子に人気なのが生チョコ大福。「どれにしよう」と真剣に悩む姿がほほえましい(笑)」

その2
食べたい!
八尾モノ

お持たせにぴったり
の三笠150円。塩バターや抹茶生クリーム入りも人気

AM's FAMILYの「シフォンケーキ」

山本マダムもきつと満悦。

近鉄八尾駅界隈で手づくりシフォンケーキが話題になっている。ふわふわした食感なのにしっとりしていて、卵の香りも濃厚。スイーツ好きをうならせる味わいだ。今年8月27日にオープン。「いろんなケーキを作れますが、シフォンケーキに絞ってこみ、2年間めちやめちや研究しました。膨張剤を使わず、九州産の卵とミルクをたっぷり仕込んであるので水分が多め。こんなスポンジは難しいんです」と言うのは



オーナーの保田亜由己さん。学生時代からケーキ店が夢で、製菓学校を卒業後も独学を続け、地元で実現した。飲食店には珍しい青をベースカラーにしており、カジュアルな雰囲気男性にも買いやすい印象を与える。「ティータムは心に栄養を与える大事なひととき。そのお手伝いができた」と相棒の田井睦さん。人気に火がついたのは爽やか同級生コンビの魅力もあるの

卵香るプレーンシフォン(生クリーム付)1,080円。直径14cmのホールはボリューム満点でお得感がある

AM's FAMILY

●八尾市東本町3-9-36
☎072-923-3755
11:00～20:00 日曜休



保田さん(左)渾身の自信作、クリスマスケーキ2,700円(～12月27日)は2日前までに予約を。田井さんの手にはカップバージョン378円も



カリフォルニアの海岸通りにありそうな陽気な店構え



ニッポンバラタナゴ

NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会の活動

毎月第3日曜日にニッポンバラタナゴの保護池で環境状態を調べたり、タナゴ、ドブガイ、ヨシノボリなどの成育状態を水の中に入って調査。第1日曜日は高安山の保水力を復元するために森林整備を実施。その他農業体験も。見学、参加大歓迎。申し込み、問い合わせはn_baratanago@yahoo.co.jpまでメールを。

Yaomania 第23号もお楽しみに!

発行＝一般社団法人八尾市観光協会
編集＝株式会社140B
表紙絵＝須飼秀和
デザイン＝山崎慎太郎
印刷＝図書印刷株式会社
※記事の情報は2017年12月1日のものです。

昔の村落が息づく高安山麓。山桜や新緑、紅葉など四季折々に見られる山景色も、八尾市民を和ませてくれている。魅力はそれだけではない。「ニッポンバラタナゴ」という全国的に希少な淡水魚が地元の熱心な活動により守られ、生息しているのだ。担い手のNPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会はビッグイベント「ドビ流し」を今年も大阪経済法科大学のふれあい池で実施した。池の水を少しずつ抜き、網を片手にあらゆる生物を採捕し、種数や個体数を確認する（在来種をため池に戻す）。「親は台風を心配したけど、居ても立って

次世代ヤオマニアの顔●

高安地区の里山保全活動に励む

梅本健琉さん(高3)

安達和馬さん(高3)

横川正哉さん(大3)

「高安は自然の宝庫。この豊かさを多くの人に知ってほしい」

も居られなくて。普段、池に入っていると近所のおっちゃんらが声をかけてくれます。いいところです」と同大学「ECO」る∞KEIHO」のメンバーでもある横川さん。清風学園生物部はクラブ活動の一環として参加しており、部員の梅本さん、安達さんはまさに水を得た魚のような活きのよさだ。「生き物好きですから(笑)。この辺は生物多様性がとても高く、多くの人に知ってほしいと思います。これからもずっと関わりたい」と声を揃える。この3人、高安ネイチャーを守る熱きレンジャーなんです。

取材・文＝きむあつこ
写真＝西岡潔(人物)

表紙「夜の楽しみ」

日が落ちるのが早い季節、仕事帰りの人を優しく迎えてくれるお店が八尾にはいくつもあります。安くて美味しい立ち呑み屋に、串カツ。店主が笑顔で迎えてくれます。他のお客さんとの距離も近く、初めて会った同士でも何気ない話を飲み交わせ、疲れが癒され、今日も「終わり良ければすべてよし」のような気分にさせてくれます。八尾の冬は寒くて温かいです。(須飼秀和)

すがいいひでかず 1977年明石市出身。日本の原風景や人びとの営みに映る郷愁を描く。著書に『私だけのふるさと』(岩波書店)など。JAグループの季刊誌『ふれあい』では伝統芸能や神事を連載。

※前号のおわびと訂正 P5大東家「大東延篤」の読みは「おおひがしのぶあつ」です。P11スタツィオーネの夜の開店時間は17:00～22:00です。謹んで訂正しておわびいたします。



ヤオマニアの心ときめく2017—18冬カレンダー

※各会場のMAPはP13です。イベントの開催日時は変更になる場合もあります。詳しくは各施設へお問い合わせください。それ以外は八尾市観光協会まで。☎072-997-6226

12/27(水)まで 久宝寺緑地
きらきらナイト2017冬のイルミネーション
●久宝寺緑地公園(P8参照)
☎072-992-2489(久宝寺緑地管理事務所)

12/17(日) 山本コシセンコンサート
●山本コミュニティセンター 11:00
☎072-995-3888(山本コミュニティセンター)

12/18(月) 公開講座
「事例に学ぶ中小企業のデザイン戦略」
●八尾商工会議所3階大ホール 15:00～18:00
→経営者・幹部(60名)対象 ※要事前申込(P13も)
☎06-6266-1515(F「STADI」運営事務局)

12/23(祝) 恩智神社立松神事
●恩智神社 ☎072-943-7059(恩智神社)

12/23(祝)・24(日)・26(火)・27(水)
第44回大阪府アンサンブルコンテスト
●プリズムホール 10:00～
23(祝)小学校・高校前半・大学(～16:40)
24(日)高校後半・職場一般(～19:00)
26(火)中学校前半(～19:00)
27(水)中学校後半(～18:30)
☎072-924-5111(プリズムホール)

12/31(日) 河内音頭カウントダウン
●近鉄八尾駅前噴水広場
→大晦日・祭事は市内各地で実施(P13MAP)

1/7(日)・8(祝) 八日戎
●八尾天満宮 ☎072-922-3558(八尾天満宮)

1/8(祝) 八尾市消防出初式
●大阪府中部広域防災拠点 10:00～12:00

1/20(土) ビブリオバトル中学生大会
●八尾市立青少年センター集会所(八尾図書館3階) 13:00～14:30 →八尾市内在住・在学の中
生対象 ☎072-993-3606(八尾図書館)

1/23(火) 八尾の魅力セミナー
「八尾の村相撲」
●プリズムホール4階会議室 講師＝嵯本和臣氏
19:00～20:30

1/24(水)～26(金) 八尾の小さな巨匠展
●プリズムホール 24日(水)10:00～17:00
25日(木)9:15～18:00 26日(金)9:15～15:00

1/28(日) 伴林光平翁と天誅組の変に
ついて面白く語る講談会!
●プリズムホール 10:25～12:00

名づけ親は振付・演出の北村成美さん。『本家、ガーシュウィンにも聴かせたい



12月下旬から1月下旬 玉祖神社の水仙
●玉祖神社 →大阪平野を望む傾斜地の水仙
1月下旬から2月上旬 とんど焼き
●市内各所

2/3(土) 追儺式(節分式)
●八尾天満宮 ☎072-922-3558(八尾天満宮)
●許麻神社 ☎072-923-4235(許麻神社)

2/3(土)～4(日) 節分祭および立春
●矢作神社 18:00～ ☎072-922-1465

2/4(日) 河内音頭定期公演
●アリオ八尾 1Fレッドコート 13:00～15:00

2/8(木) 平成29年度 生活大学
「障がい者の人権・くらしと福祉」
●八尾市立くらし学習館 13:30～15:30
☎072-922-6185(八尾市立くらし学習館)

2/17(土) 第10回八尾ロボットコンテスト
●アリオ八尾 1Fレッドコート 12:50～16:30

2/24(土) FMちやおリスナー感謝祭2018
●アリオ八尾 1Fレッドコート 11:00～17:00
総会司会:近藤綾香ほか。
→レッドコートから公開生特番放送予定。

2/27(火) 八尾の魅力セミナー
「女帝・推古天皇」
●プリズムホール4階会議室 講師＝榊井幸助氏
19:00～20:30

●八尾市立歴史民俗資料館
2/26(月)まで
民具展示コーナー「昔っておもしろい」
12/17(日) こどもしめなわづくり
1/20(土) 原始機体験講座マフラーを織る
9:00～16:30入館 火曜休 一般300円、大・高
150円 ☎072-941-3601

●今東光資料館
3/11(日)まで 小説『弓削道鏡』より
～道鏡が見つめた河内～
10:00～17:00 月曜休 ☎072-943-3810

●安中新田会所跡日植田家住宅
12/23(祝)
すこし昔のくらし体験「おもちつき大会」
1/5(金)～3/11(日)
企画展「昔のくらしシリーズ:衣の道具」
※2/11(祝)ギャラリートーク

1/5(金)～1/31(水)
ギャラリー展示「新旧大和川と新田の風景」
1/6(土)～1/15(月) 旧家で記念撮影～成人の日～
1/21(日) こどものためのお茶会
2/10(土) 旧家で芸能・伝統文化～落語会～
2/17(土)～3/18(日) 旧家で記念撮影～ひな祭り～
2/25(日) 連続講座・手習い所、①
9:00～16:30入館 火曜・祝日の翌日休
一般250円、大・高120円 ☎072-992-5311

●八尾市立しおんじやま古墳学習館
12月体験メニュー「クリスマスリースを作ろう」
1月体験メニュー「ミニ埴輪を作ろう」
1/13(土) 学び場「古墳基礎講座～八尾で見つかった埴輪の話～(仮)」 講師＝福田一浩館長
2月体験メニュー「どんぐりでひな人形を作ろう」
2/3(土) 学び場「八尾の古墳を知る～考古スケッチの記録から～(仮)」
講師＝河内一浩氏(羽曳野市職員)
2/3(土)～3/31(土) トピック展示「河内一浩・考古スケッチの旅～八尾周辺の古墳を知る」(仮)
9:00～17:00 火曜休 一般240円、大・高120円
☎072-941-3114

●八尾市立埋蔵文化財調査センター
1/21(日) 企画展開連講演会②「八尾の中世寺院」
講師＝西村公助(学芸員)
2/3(土)・10(土)・17(土) 大人のための考古学入門講座
2/21(水)～ 【通常展】八尾の地宝―埋蔵文化財調査センター収蔵品展―
2/21(水)～ 【ミニ展示】特集 東弓削遺跡調査成果を紹介
2/21(水)～ 【掲示板展示】―平成29年度―市
内遺跡発掘調査速報2017
9:00～17:00 土・日・祝日・年末年始休
☎072-994-4700

本誌表紙画家・須飼秀和さんの
2018年賀はがき、お早めに!



本誌表紙画家・須飼秀和さんの2018年賀はがき。描かれている風景は太田の願立寺。八尾市観光案内所にて限定発売中です。売り切れ御免!

Column
「八尾のものづくり」が
踊りだす! その名も
『ラプソディー in 八尾ブルー』